

学会からお伝えしたいこと

日本感覚統合学会は、日本および近隣アジア諸国における感覚統合理論の正しい理解、および正しい実践者の育成のために活動している団体です。近年、この考え方が多くの方々に興味、関心を持って頂けるようになったことで、この理論やその実践、用語の用い方に関して様々な誤解や不適切な実践等も目にするようになりました。この事態を踏まえ、日本感覚統合学会として、以下に基本的な考え方を示すことで、皆様のご理解を頂き、支援すべき対象者に害や不利益が及ぶことのないようご協力をお願いする次第です。

1. この理論をパブリックに紹介する場合、講演者（著者）は、所属、職種、感覚統合理論およびその実践に関する教育歴、講習会受講歴、引用文献等を明示するよう心がけてください。
2. この理論およびその実践に関して、パブリックに影響を与えうる立場にある方は、常に自己研鑽に努め、感覚統合理論に関する様々な知見のアップデートを心がけてください。
3. また上記の立場にある者は、感覚統合理論および療法における適応や限界、禁忌に関して常に留意し、対象者の身体的、心理的、精神的な尊厳を傷つけることなく、well being に積極的に寄与することをミッションとしてください。
4. 「感覚統合」および「感覚統合療法」の用語の使用に関して、米国では Ayres Sensory Integration との用語が正式に登録されています。また、ほぼ同じ意味で Sensory Processing Disorder との用語も用いられています。日本では未だ正式な登録はされていませんが、「感覚統合療法」との表現を用いる場合には、以下の要件を満たす場合に限ることをお勧めしています。それ以外は「感覚統合の考え方を生かした〇〇（療育、保育、教育等）」と表現し、正式な治療的介入実践と区別できるよう心がけてください。

* Ayres Sensory Integration Intervention Fidelity Measure の概要

このスケールは、作業療法士が感覚統合理論を基盤とした治療的介入を行う場合に、その理論を正しく使用している事を示すための基準を明確にするために作られたものです。

I セラピストの条件

- ・ 感覚統合に関する正式な学習をしており、感覚統合療法の認定を受けている事
- ・ 感覚統合療法の認定を持っている経験豊かなセラピストから、一定期間指導を受け

た経験があること

II 治療環境

- ・床には、マットやクッション等、吊り遊具からの落下に備えた設備、器具が設置してあること
- ・対象者の体に合わせて遊具を用いていること
- ・遊具の安全性がセラピストによって容易に確認できること
- ・セラピーに用いない遊具は、棚や部屋の隅に整理されていること
- ・定期的に遊具の消耗や破損に関する点検を行っていること

III 評価情報として以下の項目を含むこと

- ・医学、教育、治療、発育歴
- ・対象者やその家族の主訴、希望、興味、現在楽しんでいる（求めている）活動等
- ・紹介先（その理由）
- ・標準化された評価および臨床観察等のインフォーマルな評価
- ・感覚調整、および感覚識別能力に関する情報
- ・姿勢（静的、動的）、眼球運動、口腔運動、両側運動コントロール
- ・粗大、巧緻運動
- ・行為機能（模倣、プランニング、タイミング、順序立て、構成行為等）
- ・行動調整能力
- ・感覚統合と行為に関する対象者の行動に及ぼす影響に関する解釈
- ・治療的介入の目標

IV 適切な治療的介入空間と遊具

- ・適切かつ効果的な感覚提供が可能な空間と遊具を豊富に揃えていること
(例：トランポリン、様々な吊り遊具、ボールプール、触覚素材等およびこれらの活動を安全に行える広さや高さ、吊り遊具を吊るすことのできる空間)

V キーパーソンとのコミュニケーション（保護者や教師）

- ・対象者に必要な活動、対象者の行動と感覚統合機能との関連性や影響に関する情報、介入プロセスの共有

VI 適切な治療的介入

- ・対象者の身体的安全の保証
- ・触覚・前庭覚・固有覚を含む複数の感覚情報の提供
- ・対象者の適切な覚醒水準と安定した情動の維持
- ・対象者の姿勢、両側運動コントロール、眼球運動、口腔機能を適切に使えるような

サポートと挑戦の場の提供

- ・対象者の適切な行為機能や行動の組織化へのサポートと挑戦の場の提供
- ・対象者の自立性の尊重と介入目的の融合
- ・適切な挑戦的課題の提供
- ・対象者の成功体験、達成感の保証
- ・対象者の内的動機づけのサポート
- ・治療的同盟関係の確立

L.D.Parham,S.Roley,T.MayBenson,J.Koomar,B.Brett,Green,J.Burke,E.S.Cohn,Z.Mailloux,L
.J.Miller&R.C.Schaaf -2012-

*当学会が主催する認定講習会の概要